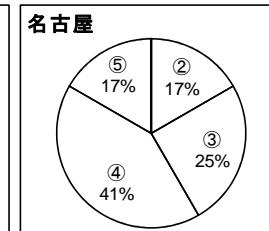
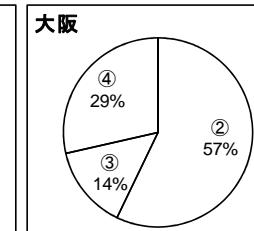
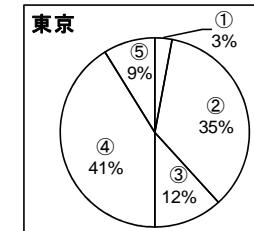


セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

Q1. 「オルタナティブ」については、資金調達手段の多様化や資金調達の構造変化にともない、ますます重要な投資対象になると思われますが、どのように管理するのが適切とお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① オルタナティブという曖昧な分類は避け、伝統的資産の枠組みで管理すべき。	1	0	0	1
② 伝統的資産では管理しきれないもの、「オルタナティブ」を一つの資産として管理することは必要。	12	4	2	18
③ 「オルタナティブ」の組み入れ比率が一定程度以下であれば「オルタナティブ」として分離管理する方がよい (ご参考までに上限と考える比率はどれくらいをお考えですか→_____%以下)。	4	1	3	8
④ 今後益々種類は増え、重要性も増すので、もはや「オルタナティブ」という分類は廃止すべき。	14	2	5	21
⑤ その他	3	0	2	5
合計	34	7	12	53

・東京1名:②⑤
・名古屋1名:④⑤



【③上限比率】

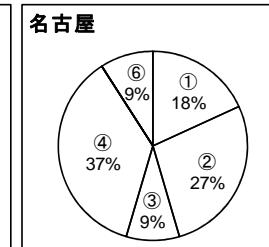
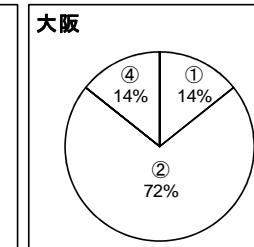
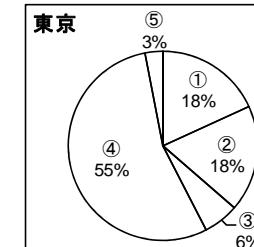
東京
・10%: 3名
・20%: 1名
・40%: 1名

大阪
・10%: 1名
・20%: 2名
・40%: 1名

名古屋
・15%: 2名
・20%: 1名

Q2. 投資対象としてプライベート物を考える場合、市場(パブリック)物との比較において、どのようにお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 詳細を理解するのが難しく、かつ流動性の制約も大きいので、消極的にならざるを得ない。	6	1	2	9
② 分析は専門家に委託すればよく、危機の場合には、市場は機能不全に陥るが、プライベート物は影響が少ないので、一定程度のプライベート物への投資は必要。	6	5	3	14
③ 過度な時価評価の弊害を避けられるので、積極的に投資する	2	0	1	3
④ 相対的交渉を通じた価値の創出が可能なので、投資対象として魅力がある	18	1	4	23
⑤ その他	1	0	0	1
⑥ 無回答	0	0	1	1
合計	33	7	11	51



Q3. ベンチャーキャピタルは、全く新しいスタートアップの企業や創業間もない企業に投資しますが、そこでは、合理的な事業キャッシュフローの推計は困難であるはずです。さて、ベンチャーキャピタルは、責任ある投資家にとって、適格な投資対象であり得るのでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 事業キャッシュフローの推計は難しくても、事業モデルの妥当性や合理性は評価し得るのだから、適格な投資である。	10	0	1	11
② ひとつひとつの案件ごとに、投資の適格性を議論することはできない。複数投資することで、統計的な制御がなり立つ限りでのみ、適格な投資である。	6	1	3	10
③ 投資後の様々な経営支援活動(いわゆるハンドソン)によって、積極的にリスク管理できるという条件の下でのみ、適格な投資である。	11	4	2	17
④ 創業直後の投資は、適格性を欠く。ある程度、事業キャッシュフローが読める段階に達した企業に、投資は限定すべきである。	5	1	4	10
⑤ その他	0	0	0	0
⑥ 無回答	1	1	1	3
合計	33	7	11	51

